



1)第50回 日本頭痛学会総会会長 五十嵐久佳先生よりご寄稿

2)第50回 日本頭痛学会総会開催のお知らせ

3)Headache Master School Japan(HMSJ)2022 Web Autumnal Semester 開催のお知らせ

4)頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介



1) 第50回日本頭痛学会総会会長 五十嵐久佳 先生よりご寄稿



第50回日本頭痛学会総会を、2022年11月25日(金)・26日(土)に品川プリンスホテルアネックスタワー(東京都港区)で開催させていただきます。東京で開催されるのは2015年の第43回総会以来、7年ぶりとなります。

本大会のメインテーマは「頭痛医療と社会貢献」といたしました。海外に約10年遅れてわが国で2000年にトリプタン注射薬、2001年に錠剤が発売され、日本の頭痛医療は大きく前進しました。しかし、一方で、いまだに受診率は低く、辛い頭痛を当たり前のよう抱えて生活している人々が多いことも事実です。片頭痛や緊張型頭痛を持つ人々は世界で30億人といわれ、日常的にありふれた疾患でありながら、患者さんご自身も周囲の人も医療者も問題に気付かず、または受け流している状況が考えられます。

わが国でも2021年からCGRP関連抗体薬が上市され、生活の支障度が劇的に改善した片頭痛患者さんも多くいらっしゃいますが、発売後1年が経ち、課題も見えてまいりました。

学会企画としては一般演題(178題)、シンポジウム(13件)、ワークショップ(2件)、特別企画(2件)、教育セミナー(2件)、招待講演、特別講演、特別セミナー、東洋医学セミナー、ランチョンセミナー、アフタヌーンセミナー、イブニングセミナー、プレングレスセミナー、CIMを予定しております。

海外からはPatricia Pozo-Rosich先生(スペイン)、Anne MacGregor先生(イギリス)をお招き、プレングレスセミナー、招待講演、ワークショップ2にご登壇いただく予定です。今回は、頭痛学会としては初めての

試みとして、東京都医師会にシンポジウム「健康経営から見た一次性頭痛の管理」(日本産業衛生学会協賛)を認定産業医研修会として申請をしておりますので、産業医の先生方のお役に立てるものと思います。またJPAC と共催で市民公開講座を開催いたします。

第50回総会という節目の時期に、頭痛医療にかかわるすべての人々に頭痛医療を通して人々のQOLを改善し、どのように社会に貢献できるかを考えていただき、次なるステップに発展させる学会にしたいと思っております。

COVID-19の感染拡大の状況に対応できるように、Webを併用する予定ではありますが、原則、現地開催としております。状況が許せば、是非、各地からアクセスのよい品川にお越しいただきたく存じます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第50回日本頭痛学会総会 会長 五十嵐久佳

## 2)第50回日本頭痛学会総会開催のお知らせ

第50回日本頭痛学会総会「頭痛診療と社会貢献」

開催日：2022年11月25日(金)・26日(土)

会 場：品川プリンスホテル アネックスタワー 〒108-0074 東京都港区高輪4丁目10-30

会 長：五十嵐 久佳 先生 (富士通クリニック)

ホームページ：<https://jhs50.jp/index.html>

今回は3年ぶりに現地開催が主体の総会となります。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

## 3)Headache Master School Japan(HMSJ)2022 Web Autumnal Semester 開催のお知らせ

今年度2回目となるHMSJがwebで開催されます。頭痛専門医を目指す先生方は、HMSJと学術総会時の教育セミナーを1回ずつ受講した場合、受験資格である教育認定病院での診療歴1年分と認められます。また、頭痛専門医の先生方は、更新のための研修認定単位10単位が付与されます。いずれの場合もHMSJの全日程を参加視聴のうえ、ポストテストに合格する必要があります。受講をご希望の先生は、下記ホームページの受講申し込み専用フォームよりお申込ください。

開 催 日：2022年11月6日(日) 9:00~16:55(予定)

募集期間：2022年10月28日(金)まで (締め切り厳守)

受 講 費：20,000円(事前振り込み)

実行委員長:北村 重和 先生(公益財団法人甲南会 甲南加古川病院 脳神経内科 部長)

ホームページ: <http://hmsj2022-2.umin.jp/outline.html>

#### 4)頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- ガルカネズマブが片頭痛患者の後頭葉機能に与える影響

de Tommaso M, et al. Central effects of galcanezumab in migraine: a pilot study on Steady State Visual Evoked Potentials and occipital hemodynamic response in migraine patients. J Headache Pain 2022;23: 52.

掲載日:2022/5/24 [https://www.jhsnet.net/pdf/zutu\\_topics\\_131.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_131.pdf)

- ヒトとマウスにおける三叉神経節の細胞構成と遺伝子発現: 片頭痛病態との関連性

Yang L, et al. Human and mouse trigeminal ganglia cell atlas implicates multiple cell types in migraine. Neuron 2022;110:1806–1821.

掲載日:2022/6/23 [https://www.jhsnet.net/pdf/zutu\\_topics\\_132.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_132.pdf)

- 複数の既存予防薬で治療が奏功しなかった片頭痛に対する eptinezumab の有効性と安全性

Ashina M, et al. Safety and efficacy of eptinezumab for migraine prevention in patients with two-to-four previous preventive treatment failures (DELIVER): a multi-arm, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3b trial. Lancet Neurol 2022;21:597–607.

掲載日:2022/7/21 [https://www.jhsnet.net/pdf/zutu\\_topics\\_133.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_133.pdf)

- Ubrogепant は片頭痛発作が軽度なタイミングで投与すべき

Lipton RB, et al. Efficacy of ubrogепant in the acute treatment of migraine with mild pain versus moderate or severe pain. Neurology. 2022 Aug 17;10.1212/WNL.0000000000201031. doi: 10.1212/WNL.0000000000201031

掲載日:2022/9/6 [https://www.jhsnet.net/pdf/zutu\\_topics\\_134.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_134.pdf)

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見, 問い合わせは <[jhs-office@shunkosha.com](mailto:jhs-office@shunkosha.com)> までお願いいたします.